

【学 年】 中学部3年生

【身 体 面】 水頭症、車イス移動が基本で病棟からの登校時は歩行器（SRC）を使用している。両手の力の調整が難しく、力をいっぱい入れて物の操作等をしていることが多いが、言葉かけで力を抜いて持ったり、離したりできることも増えてきた。

【生徒の様子】 紐が好きで両手で引っ張って楽しんだり、紙を破ったりテープをはがしたりすることを好む。特に、段ボールなどの固い紙を力いっぱい破ることを好む。ペン等を持って腕を上下に動かしてジグザグ描きができる。発達と運動の高次化理論では、内容によって、Ⅲ水準（知覚運動水準）とⅣ水準（パターン知覚水準）の評価が分かれる。少しずつできることが増えてきており、教員の話もよく聞いている。

【指導について】 美術の授業では、これまで、色や道具を自分で選び、筆やペンを持って一人で動かして色をつけたり線を描いたりすることを目標にしてきた。目標に対しては、自分からの能動的な取り組みは少なく、できたとしても短時間の取り組みであった。今年度は、「触覚」を意識した感覚遊びを取り入れることで、より能動的な動きを引き出し、制作活動につなげられるよう取り組んだ。

教材①『片栗粉粘土』

片栗粉をバッドに入れて、さらさらの感触を感じた後、少しずつ水を入れて混ぜ、とろとろの感触を感じる



にぎって固まった粘土を手の甲に乗せると、とろ~っと溶けていく、不思議な感触になる



教材②『指で描こう』

絵の具に洗濯糊を入れてとろみをつけ、直接指に絵の具をつけて描く



ぬるぬるした感触だが、画面の上で絵の具がよく伸びるので、描きやすい



教材③『葉っぱのスタンプ』

葉っぱの裏にスポンジで色をつけ、画用紙の上に置き、上から手で押さえて、でこぼこした感触を感じる



葉っぱの色を画用紙に写し取ったら、葉っぱをつかんで画用紙からはがす



●成果

『片栗粉粘土』では、直接手で触れる感触が苦手なのか自分からの能動的な動きはあまりなかったが、表情から感触を感じている様子うかがえた。『指で描こう』では、繰り返すにつれて、自分から洗濯糊の入った絵の具の器に指を入れて絵の具をつけ、描いていく様子が見られた。『葉っぱのスタンプ』では、スタンプが終わって絵の具のついた葉っぱを、優しく手に持って広げる様子が見られた。紙を持つとすぐに破ってしまうことが多いが、使った葉っぱは破ろうとはせず、いつまでも優しく触っていた。

●今後の課題

「感覚遊び」を取り入れた教材を通して見られた能動的な動きを、今後は、筆やペンを自分で持って色をつけたり線を描いたりする時や、紙を貼ったりする時にもできるように、教材や、取り寄せ方の工夫に引き続き取り組んでいきたい。